

私たちは、「勉強っておもしろい！」を目指して、子どもたちが主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。そのために、以下のような授業展開を行います。

① 学習のめあてを子どもが作る→教科書や先生が示した学習のめあてだけで授業を始めるのではなく、子どもが毎時間、自分で自分の学習のめあてを考えることができるようにする。

② 学習過程を子どもが作る→指導書や先生が示した学習予定だけで学習を進めるのではなく、子どもが自分で学習過程を考えることができるようにする。

③ 分かるまで(できるようになるまで)何度でも自分の学習を振り返り、もっと良い学習の仕方はないかを自分で考え、学習過程を修正しながら繰り返し課題に取り組むことができるようにする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策(平成30年度)

第1学年

立川市立第一小学校

	児童の実態 (○いいところ ●課題)	指導方法	具体的な授業改善策
国語	○言語活動に楽しんで取り組むことができる。 ○読書に親しみ、読み聞かせを楽しんで聞くことができる。 ○自分のしたことを二文程度で書くことができる。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを積極的に伝えようとするができる。	・音読発表会や劇、一斉読みやグループ読みなど、様々な活動を取り入れ授業を展開した。 ・読み聞かせの機会を多くもち、様々な本に親しむことができるようにした。 ・体験した後に、書く機会を設け、友達と文の交流をすることで、良い書き方をまねできるようにした。 ・ペア活動を多く取り入れ、友達に伝えることに抵抗をもちにくくした。 ・全体発表では、どのような考えも受け止め考えを伝え合うことの良さを感じられるようにした。	
	●語彙が少ないために、文に書いてあることや話している内容の理解ができないことがある。 ●話し手が知らせたいことを落とさずに聞くことが難しい。 ●助詞の使い方や長音、拗音、促音などの使い方の理解が浅い。	・読み聞かせや、気持ちを表す言葉集めなど様々な言葉に触れる機会をもつようにした。 ・話を聞くときには、話し手を見ることや、手を止めて聞くこと、口を閉じることなど基本的な姿勢について指導した。 ・長音や促音のつく言葉を身の回りから集めたり、助詞を使った文を書いたりする活動をした。	・しりとりあそびや早口言葉、回文やカルタ遊びなどを通して様々な言葉に触れる機会をもつ。 ・ペアで聞き合う活動や、読み聞かせの後にクイズを取り入れるなど授業の様々な場面に「聞く」活動を組み込む。 ・短い文を書く活動を定期的に行い、繰り返し書くことで助詞や長音等の使い方を身に付ける。
算数	○意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ○ブロックや指を使って、計算問題に取り組むことで正答率が上がってきた。	・個々の進度によって進められるように、計算の反復用の練習問題を用意したり、計算カードを使ったり、発展問題を用意したりと、一定の活動にならないように工夫した。 ・反復練習を行うことで、計算ミスが減ってきた。	
	●計算問題の「＝」を書き忘れてしまったり、単位を付け忘れてしまったり児童がいる。また、問題から答えにどの単位をつけるべきか迷ってしまう児童もいる。 ●文章問題からたし算であるか、ひき算であるか判断できず、正しく立式ができることが難しい児童がいる。	・反復練習を行った。繰り返し問題を解くことで、基礎基本問題の定着を図った。 ・文章問題の場面を具体物を使って想起させた。また、文言に着目し、問題文から正しく立式できるようにした。	・「＝」に関しては言葉の「は」と合わせて指導を行う。単位に関してはどこに注目すればよいか繰り返し確認する。 ・どの文言に着目することで、判断できるのか繰り返し伝えたり、線を引かせたりすることで定着を図る。また、具体的場面を想起させられるよう絵や具体物を使って確認する機会を作る。
生活	○身近な自然を意欲的に観察することができる。また、自然の変化や季節の様子に気付くことができる。 ○あさがおに関心をもち、大切に育てることができる。	・春と夏の公園の様子を比べ、何がどう変わったか考えさせる声かけを行った。 ・観察の観点をカードに明記することで、あさがおの特徴に注目させるようにした。	
	●生活上必要な習慣(排泄)や技能(整理整頓)が習得できていない児童もいる。みんなが使うものを大切に使うことができていない。	・トイレに正しい立ち位置の印、お道具箱の整頓された例の写真を用意し定着を図った。	・自分自身の行動を振り返り、みんなで使う物をより清潔に使うための方法を話し合う。視覚的注意喚起を引き続き行う。
音楽	○楽しんで音楽活動に取り組むことができる。 ○曲想を感じ取って、自分なりに表現の工夫を考えることができる。	・体を動かす活動や、リズムをまねする活動など、就学前の取り組みを意識して行った。 ・曲を聴いて、どんな動きをしたらいいか、ペアで考える活動を行った。	
	●自分の声を大きく出すことを重視し、丁寧に歌ったり、声を合わせて歌ったりすることが難しい。 ●自分の思いにあった表現をするための楽器演奏等の技能が身に付いていない。	・ペア活動でお互いの口の大きさを見たり、グループごとに歌の発表を行うようにした。 ・カスタネットやタンバリンの打ち方を教えたり、大きな鍵盤を表示し、指使いを教えたりした。	・自分の声や友達の声聞きながら歌うことを意識させ、良い発声や発音の仕方に気付かせられる。 ・母音・子音等に注目させた指導を行う。 ・様々な楽器に触れる機会を作り、音の出し方で音色が変わることに気付かせる。
図工	○どんな作品も楽しく作り出すことができる。 ○使用する道具を正しく使い、安全に活動に取り組む事ができる。	・作品を作る工程を、タブレット等で、視覚化させることで伝わりやすい説明を行った。 ・刃物や粘土べらを使う時の注意で、正しい使い方を考えさせてから、活動を行った。	

上	<ul style="list-style-type: none"> ●作品を見て、自分の感じたことを表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品の良いところを探して、より見方や感じ方を深めることができたようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用意する色や道具、材料を増やし、児童の表現方法を広げる。 ・鑑賞する活動を多く取り入れ、児童の見方や感じ方を広げる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に学習に運動に取り組もうとする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめて行う運動にも積極的に活動できるように、難易度が低い内容から運動に取り組めるよう授業の組み立てを考えた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●技能面や体力面など、個人差が見られる。 ●自分の課題に向き合って、運動に取り組むことを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師または児童が模範演技等をし、やり方を見て、イメージをもたせられるようにした。 ・友達の良いところを見本にしながら運動するように声掛けをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の模範となる動きをまねすることから、できるイメージをもたせ、スモールステップを踏めるように場の工夫を行う。 ・友達のいいところを見付けられるように、目指す像を児童に提示する。